



15組がファイナル

6回目を迎えた起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード（GIA）2018」（上毛新聞社主催、田中仁財団共催）の2次審査が28日、前橋市の同社で開かれ、12月1日のファイナルステージ（公開最終審査）に進出する15組が決まった。



出場者のプレゼンに耳を傾ける審査員ら

GIA 2018 最終審査進出者		
氏名	所属	プラン・事業タイトル
ビジネスプラン部門／高校生の部		
太田直輝 藤井ミレナ	市立太田3年・3年	アグリスターター支援事業 アグRe:Start
川島一翔 江本陽哉	太田東2年・2年	被災者が必要としている物資や人材をマッチングするアプリ開発
中沢陽	県立前橋1年	何も無いを魅力に ZINEで始める新しい群馬の観光
加部隆太 吉岡愛悟	高崎2年・2年	MR(複合現実)を用いた職場体験ビジネス
ビジネスプラン部門／大学生・専門学校生の部		
武彩加	中央農業大学校2年	アグリウム＝アグリカルチャー×アクアリウム
伊藤裕喜	群馬大2年	たまZON ～実際に届く育成ゲーム～
松永農人	群馬大2年	研修医教育支援サービス「train doctor-in-training」
ビジネスプラン部門／一般の部		
福島直	ARIGATO COMPANY	COOMIRU(コーミル)で保育の先生たちに真の子育て環境をつくり出す
松本健	グルメフレッシュ・フーズ	「キッチン・デリ」～働き方改革の一つの形～
須永光	三見メンテクス	「Troubless」機器の経年劣化による故障を未然に防ぐIoTシステム
スタートアップ部門		
多胡邦夫	TAGO STUDIO TAKASAKI	TAGO STUDIO T3-01
田村雅美	エピテみやび	「見た目」と「こころ」を取り戻す人工ボディパーツ
堀口航平	コルシー	心電図遠隔診断サービス「コルシステム」
イノベーション部門		
高井俊一郎	山名八幡宮	地域を紡ぐ鎮守の杜エリアイノベーション
高橋大悟	BMZ	現代人の足にインソール革命を起こす「履くトレ」の開発

(エントリー順)

2次審査には、エントリー総数402件の中から1次書類審査を通過した47組が臨んだ。3分間のプレゼンテーションの後、審査員からの質疑に応じた。審査は田中仁・ジンス社長、腰高博・コシダカホールディングス社長、鳥越淳司・相模屋食料社長、荒井正昭・オープンハウス社長、鎌田一郎・上毛新聞社取締役のほか、今回から新たにGIAのパートナー企業とフイナシナルサポーターも加わった。

起業や第二創業を目指すビジネスプラン部門では、高校生の

部で4組、大学生・専門学校生の部で3組、一般の部で3組が選ばれた。創業5年未満の起業家を対象としたスタートアップ部門では3組、創業5年以上の事業者が対象のイノベーション部門では2組が選出された。

15組は12月1日、ヤマダグリーンドーム前橋（前橋市）でのファイナルステージに臨む。特別講演としてニトリ創業者でニトリホールディングス会長兼CEOの似鳥昭雄氏が登壇する。正午開場、午後2時開幕。入場無料で、事前申し込みは不要。